

ピンクリボンNEWS japan

2013年
冬号
Vol.2 No4

発行人 特定非営利活動法人 J.POSH 編集 ピンクリボンNEWSjapan 編集委員会
発行所 J.POSH事務局〒538-0043 大阪市鶴見区今津南2丁目6番3号 TEL.06-6962-5071

J.POSH
日本乳がんピンクリボン運動®

TOPICS

乳がんと原因遺伝子 解析と治療への期待

—肥満原因の新たな遺伝子発見— こんな記事を最近よくみかけませんか?インターネットで「遺伝子検査」で検索したら、肥満遺伝子検査キットのサイトが一番にでてきました。口腔粘膜の細胞を綿棒で採取して送るだけで、肥満に関与する3つの遺伝子を調べ、遺伝子レベルでその人にあったダイエットのアドバイスとレシピブックを届けてくれるとのこと。肥満だけでなく、いろいろな病気が遺伝子レベルで解明されてきました。このような遺伝子検査は遺伝子解析技術の飛躍的向上がもたらした画期的な生命科学の進歩と言われましたが、すでにインターネットで手軽に、数千円出せば遺伝子検査を受けることができる時代になったのです。

乳がんの診断・治療においても既に応用されています。乳がんの病理診断は古くはがん細胞の形態や分化度、リンパ節転移に基づいて行われていました。それをもとに抗がん剤やホルモン剤といった薬物療法の適応が決められていました。女性ホルモン依存性のがんである乳がんでは卵巣切除などのホルモン療法も行われていましたが、その適応はおおざっぱなものでした。20世紀末におおきな変化が起こります。1985年、細胞の増殖・分化に関わるHER2受容体とそれをコードする(受容体を構成するタンパク質産生の遺伝暗号となること)遺伝子であるerbB-2が同定されました。ヒトの乳がん細胞においてこの遺伝子が増幅しているものがあることも分かりました。そしてこのHER2受容体を標的とする分子標的治療薬であるハーセプチンが開発され、日本では2001年にHER2受容体陽性の転移性乳がんの患者さんに用いることができるようになりました。乳房の腫瘍のみならず、肺や肝臓に転移した腫瘍がみるみる小さくなり、そして腫瘍が消えてしまった患者さんもたくさん出てきました。まさに魔法の薬の登場でした。いっぽう、乳がんのホルモン依存性について解明がすすみ、ホルモン受容体の検査法も進歩、普及してき

ました。閉経前・閉経後といったホルモン環境に則したホルモン療法剤が開発され、これらも一種の標的治療として普及してきました。乳がんの70%はホルモン受容体陽性、20%はHER2陽性(うち5%は両方陽性)です。残り15%はエストロゲンおよびプロゲステロンの2つのホルモン受容体とHER2受容体が陰性で、トリプルネガティブと呼ばれます。これらは薬剤の標的となるものがなく、一般的な抗がん剤を使っているのが現状です。しかし、これらの乳がん患者さんにもあかるい光が見えてきました。

各種がんを遺伝子レベルで解明し、その治療に役立てることを目的としてアメリカのNIH(National Institute of Health)がThe Cancer Genome Atlas Network(TCGA)を設立しました。そしてTCGAから2012年、825人もの乳がん患者さんの標本を用いた詳細な乳がんの遺伝子解析が報告されました。ホルモン感受性陽性のLuminal type, HER2陽性のHER2 type, トリプルネガティブの大半を占めるBasal-like typeについて、そのがんの発生・増殖に強く働いていわれる「ドライバー遺伝子」が明らかにされました。Basal-likeについてはがん抑制遺伝子であるTP53の変異が高頻度に見られることが分かりました。また、遺伝子レベルで卵巣がんと共通の発がんメカニズムをもつことも分かり、白金系とタキサン系抗がん剤の併用の有用性を後押しすることとなりました。また、遺伝性乳がんの原因遺伝子であるBRCA1, BRCA2の機能低下がみられるものも少なくありません。これらのドライバー遺伝子を標的とした治療薬の開発が進むことが期待されます。

ヒトの体は周囲の環境で絶えず変化しており、がん細胞も絶えず変化しています。またたくさんの遺伝子が複合的に関わっており単純ではありません。遺伝子レベルの研究で開発された有効な薬剤に期待が膨らみますが、自然に逆らわず、ヒトが長い歴史のなかで身につけてきた病を防ぐ養生も大切にしたいです。

目次

TOPICS「乳がんと原因遺伝子 解析と治療への期待」	1
乳がんTure-Zure「ピンク・ピンク・ピンク」	2
自己検診啓発のためのティッシュ配り	3
家族で湯ったりキャンペーン	3
J.POSHピンクリボン検定のお知らせ	3
JMSプログラム2013アンケート結果速報	4

乳がんTure-Zure

リレーコラム 第6回

ピンク・ピンク・ピンク

宮良クリニック 宮良 球一郎

淡いピンク基調の壁にしたクリニックで、患者さん手作りのピンクのコーヒーカップにさんぴん茶を注いで外来がスタートします。私の白衣はピンクのかりゆしウェア。

癌研で「乳がん」の魅力に取りつかれたのが38才。2年半の修業を終え、沖縄帰郷。これまでの一般外科はきれいさっぱり捨て、ひたすら乳腺学を追い求めて10数年が経過しました。38才から私の人生はまさにピンク・ピンク・ピンク。そんな中から私のピンクリボン運動をピックアップしてみました。

ピンクリボン運動 = エピローグ =

沖縄に帰る日が迫ってきたある日の癌研究所内の昼なお暗い講堂の片隅で、今も親しくしている友人(MR)に沖縄での「乳がん」の夢を語っていました。癌研に比べはるか遅れていた沖縄の乳腺診療レベルを患者のためにすぐにも高めなければならない。また直径1000kmもある沖縄県の島々に出かけて行って、正しい乳がん検診と正しい治療の必要性を訴え続けなければならないと。

ピンクリボン運動 その1

スキルアップと琉球乳腺倶楽部への道

帰郷後すぐに乳腺に興味ある先生方を集め学術担当MRと薬の基礎勉強会の実施。全医療施設対象の検査技師勉強会を2か月に1回実施。国内外から専門医を招聘して講演会を頻繁に開催。こうした取り組みで乳腺診療レベルも格段に向上したので、「Patient. first」を主旨とした「琉球乳腺倶楽部」を設立し、患者さんの幸せ向上を目指しています。



ピンクリボン運動 その2

手作り講演会(辻説法スタイル)

一般市民向け講演会の第1回は我が故郷石垣島で友人や家族の協力で実施しました。ワット隆子さんの協力もあり楽しい講演会でした。その後巡った島は沖縄本島各地に加え、宮古島、伊江島、北大東島、与那国島で、今年は久米島(楽天キャンプ地)で講演しました。ほとんど手作りで、人集めは患者さんに手紙を書き、家族、親戚、友人を講演会場に連れてくるよう頼みこみ、会場は主に公民館です。準備から講演後の後片付けも皆で手配して大変ですが、14年間続けており、私のライフワークの一つになってます。

ピンクリボン運動 その3

歩く広告塔

女性が皆乳がん検診をうけてくれるには、どうしたらいいのかがいつも考えてました。ある時そうだ自分を変えよう。歩く広告塔になろう。その日からピンク以外の洋服はタンスの奥にしまい、毎日いつでも体の一部にピンクを身に着けました。「どうしていつもピンクなんですか」と聞かれたらチャンス。「それはですね。あなたに乳がん検診に行ってもらいたいから。」

いい夫婦の日スマイルアップキャンペーン



グリーティングカード

いい夫婦の日(11月22日)に、全国のご主人から奥様に「年に1度は乳がん検査を受けて、僕や家族のためにも元気でいてね!」の思いを込めて乳がん検診受診費補助キャンペーン参加証付きの「J.POSH いい夫婦の日グリーティングカード」を贈って頂く企画です。このグリーティングカードを贈られた奥様は、期限内に検診を受けられ、忘れずにJ.POSHまでご応募下さい。

こんなピンクリボン活動をしています

自己検診啓発のためのティッシュ配り

10月の乳がん月間に合わせまして、10月6日午後1時より大阪駅周辺で、患者会「関西ひまわりの会」と「NPO法人J. POSH」個人サポーター合同によるティッシュ配りを行いました。集まりました約30余名が、自己検診方法の図解入りティッシュを配り、道行く人々に「乳がん自己検診」を訴えました。

この企画は、患者会とNPO法人J. POSHとの初めてのコラボ企画で、今後このような企画を発展させていきたいと思っております。

今回、なぜ自己検診かといいますと、国民生活基礎調査において、2010年に乳がん検診を受けた人は、24.3%と厚生労働省が目標に掲げている受診率50%にはまったく届いておりません。このような状況を考えますと、他人事ではなく自らが「乳がん自己検診」を行うことが、低い検診率を補う重要なことであると思えます。

今回配布しました自己検診方法の図解入りティッシュは、有料ではありますが、多くの方にお使いいただければ、幸いです。ティッシュに関しましては、NPO法人J. POSH事務局までお問い合わせ下さい。



「家族で湯ったり」キャンペーン

このたび初めて企画しました、「家族で湯ったり」キャンペーンですが、全国より多数のご応募いただきました。やはり、日本人は、温泉が大好きですね。皆様の「温泉に入りたい」というお気持ちが、応募用紙にたくさん綴られていました。また、心配をかけたご家族へのプレゼントにしたいとの思いを、多くの方が持っておられました。さて、厳選なる抽選の結果、右記の方々の当選が決まりました。ご当選者様には、それぞれのご希望の施設様のご招待

券を発送いたしました。

- ① 益子温泉 ホテルサンシャイン益子館(東京都 H. O様)
- ② 湯田上温泉 ホテル小柳(福島県 Y. H様)
- ③ 浅間温泉 東石川旅館(千葉県 A. K様)
- ④ 浅間温泉 富士乃湯(東京都 O. K様)
- ⑤ 下呂温泉 木曾屋(兵庫県 E. N様)
- ⑥ 犬鳴山温泉 不動口館(島根県 S. H様)
- ⑦ 大歩危・祖谷温泉郷 新祖谷温泉ホテルがずら橋(埼玉県 Y. N様)

また、来年度も温泉施設様にご協力いただきまして、是非、このキャンペーンを実施したいと思っております。

J. POSHピンクリボン検定のお知らせ

NPO法人J. POSHは「乳がんで悲しむ人を無くしたい!」という思いのもと、乳がんの早期発見・早期治療を目標に、正しい知識の啓発を行ってまいりました。

活動を始めて10年が過ぎ、2012年の乳がん死亡者数が、ついに減少というデータが発表されました。この傾向がさらに続いていく事を目標に、一人でも多くの方に乳がんの正しい知識を得て頂き、各人が早期発見・早期治療の大切さを認識し、実践していただけることを願っております。

J. POSHのホームページ上ではありますが(受検は無料です)「入門」「基礎」「発展」と三段階のコースを受検して頂き、楽しみながら乳がんやピンクリボンに対する知識の向上と啓発に努めていただければと思います。

また、ご希望の方に発行いたします寄付金付合格証の寄付金は、勉強つながりと言う事で「J. POSH奨学金まなび」への寄付とさせていただきます。

皆様、合格をめざして何度でもトライして、できれば合格証もゲットして、寄付のご協力をお願いします。

PCサイト



スマートフォンサイト



検定の受検は J. POSH ホームページへ <http://www.j-posh.com>

ジャパン・マンモグラフィサンデー(JMS)2013年度アンケート結果速報

本年で5回目を迎えましたJMSプログラム、10月20日(日)に全国352カ所の医療機関から賛同いただき、5千人以上の方が受診されました。プログラム当日に各受診者と医療機関を対象にアンケートを実施いたしました。速報値になりますが集計結果です。(11月30日現在)

受診者

有効回答数：4,052人【11月30日現在】

()内は構成比

1.マンモグラフィ検診について

初めて	1,249人(31.4%)
毎年	1,012人(25.4%)
2年に1度	767人(19.3%)
数年前	847人(21.3%)
その他	105人(2.6%)

2.受診された理由

日曜日だから	1,745人(30.3%)
予防のため	1,581人(27.5%)
無料クーポン受給	730人(12.7%)
不安があるので	559人(9.7%)
市民検診	321人(5.6%)
家族のすすめ	230人(4.0%)
友人、職場のすすめ	226人(3.9%)
JMSを知って	246人(4.3%)
その他	117人(2.0%)

3.これからも受診されますか

受診します	2,989人(74.9%)
機会を見て受診します	987人(24.7%)
受診しません	12人(0.3%)

4.年齢

17-29歳	166人(4.4%)
30-39歳	780人(20.6%)
40-49歳	1,183人(31.2%)
50-59歳	854人(22.6%)
60-69歳	575人(15.2%)
70-79歳	206人(5.4%)
80歳以上	23人(0.6%)

医療機関

回答数：240医療機関【11月30日現在】

()内は構成比

1.2013年度JMSに参加していかがだったでしょうか

良かった	207(86.3%)
よくなかった	3(1.3%)
どちらでもない	22(9.2%)
無回答	8(3.3%)

2.今回の結果について

予約定員	10,578人
実受診者数	5,025人
(内訳)	
自主検診	1,942人(38.6%)
市民検診	1,809人(35.9%)
無料クーポン使用	1,048人(20.8%)
その他(人間ドッグ等)	34人(0.7%)
企業検診	201人(4.0%)

(((医療機関の声)))

- ・働く女性や、初めての方が多く、良い検診になりました。
- ・広く知られることとなり、休日実施のメリットがあった。
- ・毎年続けることで、意識も「当然やる事」という様に変化した。
- ・接遇を利用して、乳がん検診の必要性や罹患率など説明できた。
- ・受診者の反応が良く、ニーズを感じた。

(((受診者の声)))

- ・本日、乳がんを発見することが出来ました。
- ・10月以外にもう1回(半年に2回)位あるとより受診しやすい。
- ・レディース検診として、子宮がんも同時に受けられるとありがたい。
- ・もっとたくさんの方に知って頂けるよう広告したら良いと思う。
- ・我々仕事をしている者には、日曜日で大変助かります。

PRNj 秋号あとがき

今年もあとわずかです。過ぎました10月は、乳がんピンクリボン月間を迎え、多くの方が、ピンクリボンの啓発活動に参加されたことと思います。

NPO法人J. POSHでは、本年もジャパン・マンモグラフィ・サンデー(JMS)を全国352の医療機関に賛同をいただき、約5千名以上の方が、受診されました。マスメディア、自治体、

医療機関ならびに各企業・団体の広報活動を通じ、受診に行こうと思われる方々が、年々増えてきた結果ではないでしょうか。しかしながらJMSの認知度はまだまだ低いとの指摘もごございます。今後更なる広報活動の強化を図りながら、検診受診率の向上に取り組みたいと思っています。

くる年も皆様と共にあらゆる機会を通じて、ピンクリボン啓発活動を推進していければと願っております。